

新学習指導案 令和4年度～（記入例）

【参考】『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 令和3年8月 国立教育政策所教育課程センター

〇〇科（ ）学習指導案			
		〇〇高等学校 〇〇科 〇年	
令和〇〇年〇〇月〇〇日（〇）第〇時限		場所：〇〇〇〇 指導者：〇〇 〇〇	
単元(題材)名			
学習指導要領上の位置づけ	学習指導要領の各項目の「内容」に示された項目を記す。(内容のまとめ)		
単元(題材)の目標	「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」のすべての内容を踏まえて記す。		
単元(題材)設定の理由	＊この単元(題材)全体についての指導方針を述べる。[指導者の立場で書く] (1) 生徒観 ・教科で身に付ける資質・能力の点で、学年目標への達成状況等について具体的に記す。 ・これまでの学習経験や既習事項の習得状況等(生徒がどのような学習を積み重ねてきたか、どのような実態にあるのか)を記す。また、その実態を踏まえて、当該単元(題材)の学習で身に付けさせたい力について記す。 (2) 教材観 ・教科で身に付ける資質・能力育成の観点から単元(題材)で育成できることについて、具体的に記す。 ・生徒観を踏まえ、単元(題材)の目標を実現するために扱う教材の系統性、特徴、意義、価値等について記す。また、既習単元(題材)との関連や今後の展開等についても触れる。 (3) 指導観 ・単元(題材)の目標を実現するために、(1)で記述した生徒の実態を踏まえ、(2)で記述した教材を用いた有効な指導の方針や方法を記す。 ・単元(題材)の目標の実現に向けた、生徒の実態に応じた教材の活用方法や言語活動を適切に位置付けた授業構成、指導形態や環境設定の工夫等について記す。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導上の工夫や手立てを明確に記す。		
単元(題材)の評価規準	知識・技能※	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【高等学校 各教科】 (国立教育政策研究所教育課程センター)を参考にする。		

※職業に関する教科は知識・技術

◇指導と評価の計画（全 16 時間）

美術 記入例

時	主な学習活動	【評価の観点】			評価規準	
		知・技	思	態	[指導に生かす評価]	記録に残す評価 (評価方法)
1 2	1 作品の鑑賞（2時間） ・人物像をテーマにした複数の美術作品をグループで鑑賞し、作品から感じ取ったことや、作品の主題と表現の関係や意図と工夫などについて考えたことなどから根拠をもって批評する。 2 作品の主題と表現の関係や意図と工夫などから、表現における形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。	[知] ↓	[鑑] ↓ 鑑	[態鑑] ↓ 態鑑	[鑑][態鑑]人物像をテーマにした複数の美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取ったり、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考えたりしている。（発言の内容、ワークシート、活動の様子） [知]鑑賞の学習活動を通して、主題と表現の関係や意図と表現の工夫などから、造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。（発言の内容、ワークシート） 鑑 作品を鑑賞し、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。（発言の内容、ワークシート） 態鑑 主体的に作品を鑑賞して、造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい人物像などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。（活動の様子、ワークシート）	
3 4 5 6	【評価の観点】と評価規準の記入について					
		【知・技】	[知]	知	「知識・技能」の知識に関する評価規準	
		知識・技能	[技]	技	「知識・技能」の技能に関する評価規準	
		【思】	[発]	発	「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準	
		思考・判断・表現	[鑑]	鑑	「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準	
		【態】	[態表]	態表	表現における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準	
		主体的に学習に取り組む態度	[態鑑]	態鑑	鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準	
7 本時	[指導に生かす評価]・・・生徒の学習の改善や、教師の指導の改善につなげるために用いる 例：[知] [技] 「知識・技能」 [発] [鑑] 「思考・判断・表現」 [態表] [態鑑] 「主体的に学習に取り組む態度」					
8 9 10 11	記録に残す評価・・・題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる（授業内での評価を再確認するための評価も含む） 例：知 技 「知識・技能」（表現の題材では、知と技を知・技として一体的に評価） 発 鑑 「思考・判断・表現」 態表 態鑑 「主体的に学習に取り組む態度」					
12 13 14	・観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく、原則として単元や題材など、内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要である。 ・「題材の評価規準」において設定した評価規準を、具体的な指導計画の中に配置する。 ・評価規準とは学習指導のねらいが実現された状況を具体的に示したものであり、「本時のねらい」と関連したものである（指導と評価の一体化）。 ・評価規準は「ねらい」が達成された具体的な姿（B おおむね満足できる状況）を表すものである。					
15 16	*【文末表現例】（結果の可否ではなく、行為に対して） 【知・技】 ～している（ 知 理解している 技 表している など） 【思】 ～している（ 発 構想を練っている 鑑 見方や感じ方を深めている など） 【態】 ～している（ 取り組もうとしている 態表 表そうとしている 態鑑 感じ取ろうとしている など）					
	(授業外：題材の終了後)	知・技	鑑 発		知・技 (完成作品、ワークシート、アイデアスケッチ：再確認) 鑑 (ワークシート：再確認) 発 (完成作品、ワークシート、アイデアスケッチ：再確認)	

◇本時のねらい（第 時）

- ※ 指導と評価の計画の該当する時間との整合を図り、生徒に実現させたいねらいについて、生徒の立場で書く。
- （例）〇〇に関する社会的な課題について、解決策をグループで話し合うことを通して、自分自身の考えを表現する。

ねらいを達成するために、適切かつ効果的な学習活動となるよう工夫する。

◇指導過程

段階	学習活動	時間 (分)	◇指導上の留意点 ◆評価規準【観点】（評価方法） ※◆の次にAの具体的な姿の例と、Cへの手立ても記す
導入	[生徒の立場で書く] (例) 1 前時までの内容を振り返り、本時のねらいを把握する。		[指導者の立場で書く]
	生徒に示す本時のねらいや学習課題 (例)「〇〇に関する社会的な課題を解決しよう。」		
展開	2 〇〇の課題を把握する。 (1) グループでグラフデータと新聞記事から〇〇に関する課題を発見する。 (2) 課題を板書し発表する。 3 〇〇に関する課題の解決策について考える。 (1) グループで課題の解決策について話し合う。 (2) グループごとに解決策を発表する。 (3) 多様な解決策があることを知る。 (4) 発表をもとに解決策についての自分自身の考えをワークシートにまとめる。		◇学習活動について、指導上の重点、工夫、手立て、支援等について留意すべきことを具体的に記す。 (例)・生徒一人一人の学習進度に応じた手立て ・生徒が主体的な学習を進める手立て ・資料提示の機会や方法 ・効果的な学習方法や学習形態の工夫 ・つまずきのある生徒への支援 [文末表現例] ○ ～助言する × ～説明する ～配慮する ～指導する ～を促す ～させる ◆〇〇の課題の解決策について、自分自身の考えを表現している。 【思】（ワークシート） A:〇〇の課題の解決策について、現実的・具体的に考え、表現している。 C:本時の活動について質問したり、他者や他グループの意見や発表の内容について確認したりして、〇〇の課題解決策について自分自身の考えをもてるよう支援する。
まとめ	4 本時の学習内容を整理し、ねらいが達成できたかどうかを振り返る。		※A:Aと判断する根拠となる生徒の具体例を記す。 ※C:Cと判断した生徒に対する、具体的な指導や支援の手立てを記す。

【知・技】知識・技能
【思】思考・判断・表現
【態】主体的に学習に取り組む態度

資料	ワークシート、〇〇を表したグラフデータ、新聞記事
----	--------------------------